# 18［評論］『演劇入門』

　演技を一口にものまねと言いきってしまうことには、反対の人もあろう。反対の主な理由は、俳優が引き写しにすればすむような手本がいったいどこにあるのか、ということらしい、これはその通りだ。

　俳優が演技のよりどころにするのは字に書いただけの脚本である。なるほど登場人物の口にするせりふは、文字通りそこに記されてはいるが、それすら、ａ肝心の耳にきこえる形─話し手の心に起きることを感じとるのに大事な、その音色、高低、強弱、速度、休止など─についての指定はほとんどない。そういう字に書かれただけのせりふやわずかばかりのト書から、自分の役の性格、他の役との関係、その内的・外的行動の「途切れぬ線」、脚本全体のｂ意図（「超課題」）、そのなかでの自分の位置や役割を読みとり、それを自分の体験や知識や想像力でおぎなって、生き生きした役のイメージをつくりあげ、形にあらわすのは俳優の仕事である。

　もちろん俳優の仕事にはものまねの部分、手本を引き写しにすればすむ、そうするしかない場合もあろう。たとえば、役の必要に応じて、方言や流行歌や民俗舞踊や特殊な作法、ややのつかい方、の手口などを、その道の専門家にならう場合だ。街でひろった実在人物の形や動きを演技に組入れる場合もあろう。だが①それをそのまま舞台にのせることはない。ことにつかの間の観察がとらえた大ざっぱな切れぎれの印象を、自分の体験や想像でふくらませ、一貫した行動の流れにぎあわせるのは、俳優ひとりひとりの働きである。

　だが、②直接の手本がないというだけで、俳優の仕事がものまねではないと決めてしまうのも単純すぎるようだ。

　ものまねにもいろいろある。手本をすぐその場で、あるいは短時間のうちに再製していく［　、Ａ、　］的・受動的な模倣もあれば、長いｃセンプク期間をおいて、以前に経験した自他の行動のいろいろな要素を思いだし、全体のイメージを追いながら、それらをまとまった行為に繫ぎあわせていく［　、Ｂ、　］的・能動的な模倣もある。だいたい似かよった形や段どりで同じ結果に達すればよいという大ざっぱな結果本意の模倣もあろうし、手本の外形を余すところなく、細部にいたるまでｄコクメイに再製しようとする［　、Ｃ、　］的・機械的な模倣もある。

　この場合はいずれも、手本と同じような結果を生みだすことを目的とするわけだが、ただ手本の行動のイメージをつくりだせばよいという模倣─別に手本と同じような実際の結果を生む必要はなく、ときにはそうなっては困るような、また手本をそっくり再製するよりは、そのいくつかの部分をとりだし、その特徴を強調することで、全体を代表させる［　、Ｄ、　］的・③創造的な模倣もある。芸術に、俳優術に必要なのは、この種のものまねであろう。

　もちろん俳優が役をつくるには、作者の書いた脚本を手がかりに、役の行動を、相手役の行動を、それらが置かれている場面を、その字面から想像しなければならない。だがイメージは、それ以前にｅタイショウの体験を必要とする。まず俳優自身の体験が─自分の動作なり、他人の動作のものまねなりが、イメージ以前になければならない。したがって「部分的」であろうと「創造的」であろうと、④芸術が、俳優術が一種のものまねであることに変わりはない。

●語注

ト書＝演劇の脚本で、役者の動き、場面の情況、照明・音楽などの演出上の指定をせりふの間に書き入れたもの。

◆漢字

本文中の二重傍線部ａ～ｅのカタカナを漢字に直し、漢字は読みをひらがなで記せ。

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問１　本文を内容上大きく二つの部分に分けた場合、その後半は第何段落からとするのが適当か。段落番号で答えよ。7点

第〔　　〕段落

問２　傍線部①とあるが、なぜ「そのまま舞台にのせることはない」のか。本文中の語句を用いてわかりやすく説明せよ。8点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問３　傍線部②とあるが、それはどのような「手本」か。本文中から二〇字以内で抜き出して答えよ。7点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問４　空欄Ａ～Ｄに入る最も適当な語句を次から選べ。3点×4

ア　部分　　イ　関接　　ウ　全体　　エ　直接

Ａ〔　　　〕　Ｂ〔　　　〕　Ｃ〔　　　〕　Ｄ〔　　　〕

問５　傍線部③とあるが、どのような点が「創造的」なのか。本文中の語句を用いて説明せよ。8点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問６　傍線部④とあるが、筆者がこのように結論づけている理由として最も適当なものを次から選べ。8点

ア　俳優は少なくとも、脚本に書かれているせりふを書かれているままに発声して演じるものだから。

イ　俳優にとって、声の高低や強弱、速度や休止などのほとんどが、すでに他の俳優が演じたものと同じだから。

ウ　俳優は必要に応じて、方言や流行歌、民俗舞踊や武器、農具の使い方などを専門家にならい、まねをするから。

エ　俳優にとって、自分に経験がないような役は、ひたすら他人の行動から想像することでしか実現しないから。

オ　俳優には、役に必要なイメージの前提として、自分や他者の動作を体験する意味でのものまねが必要だから。

【解答】

漢字　aかんじん　bいと　c潜伏　d克明　e対象

問１　［4］段落

問２　観察によってとらえた細切れのものを、一貫した行動の流れに繫ぎあわせる必要があるから。

問３　俳優が引き写しにすればすむような手本（18字）

問４　Ａ＝エ　Ｂ＝イ　Ｃ＝ウ　Ｄ＝ア

問５　俳優が（手本をそっくり再製するのではなく）部分の特徴から行動のイメージをつくりだす点。

問６　オ

■覚えておきたい語句

□4　肝心……………………大切なこと。

□7　意図……………………考えていること。〔類〕企図・思惑

□10　特殊……………………普通と違っていること。特別なこと。〔反〕一般

□12　つかの間………………ほんの少しの間。しばらく。

□15　受動……………………他からの働きを受けること。受け身。〔反〕能動

□16　模倣……………………真似ること。似せること。〔反〕創造

□16　潜伏……………………ひそかにかくれていること。

□17　能動……………………他に働きかけること。〔反〕受動

□19　克明……………………細かい点まで明らかなこと。十分に詳しい。

□23　創造……………………新たにつくり出すこと。〔反〕模倣

□26　対象……………………目標や相手のこと。〔外〕オブジェクト

〔要　約〕

　［1］～［3］段落を受けて、主張を提示している［4］段落と結論の［7］段落を中心に要約する。

　　　　　　↓

直接の手本がないからと俳優の仕事がものまねでないと決めるのは単純すぎる。役づくりには、まず自分や他人の動作のものまねとしての体験が必要であり、芸術・俳優術がものまねであることに変わりない。（94字）

〈筆者＆出典〉千田是也（せんだ・これや）一九〇四年（明治37）～一九九四年（平成６）東京生まれ。演出家、俳優。一九二五年築地小劇場創立に参加後、ドイツへ留学した。小林多喜二のプロレタリア文学をドイツ語に翻訳、俳優座設立など多岐にわたって活躍。戦後は、東宝の特撮ものを含め、多くの映画に出演した。本文は、『演劇入門』（岩波新書、一九六六年）より。

【読みのセオリー】

★キーワードを文章全体の中での位置づけに注意して読む

　評論では、文章全体で何が問題として取り上げられているか（キーワード）をまずつかむ。

　本文では、「ものまね」がキーワードになっている。演技を「ものまね」と関わらせて、どのように述べているかがわかると、文章の論理が見えてくる。

■読みのセオリー［実践］キーワードを文章全体の中での位置づけに注意して読む

問１

１　演技を［１　　　］と 言いきることに反対の人もあろう。

　　　　　 ２（［　］ ～［　］段落）

　論証

　　　　　　　　　逆の立場で述べる

３［　］段落　だが俳優の仕事が［１　　　　］でないと決めるのも単純すぎる。

７（結論）芸術が、俳優術が一種の［１　　　　］であることに変わりはない。

〔解答〕　１ものまね　２［2］～［3］　３［4］

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊差し替え

問２　傍線部①とあるが、なぜ「そのまま舞台にのせることはない」のか。理由として最も適当なものを次から選べ。

ア　俳優が引き写しにすればすむような手本がないことから、演技をものまねと言い切ることに反対する人が多いから。

イ　脚本にせりふそのものは記されていても、その音色や高低、強弱、速度、休止などは書かれていないから。

ウ　さまざまな観察によってとらえた細切れのものを、一貫した行動の流れに繋ぎ合わせる必要があるから。

エ　方言、流行歌、民俗舞踊、農具の使い方や掏摸の手口などを教えてくれる専門家たちは俳優ではないから。

オ　見本とするものがないからと言って、俳優の仕事がものまねではないと決めつけることには無理があるから。

［答］ ウ

＊新問（第３段落の「もちろん」「たとえば」「だが」を空欄にして。）

問　空欄ａ～ｃに入る接続詞として適当なものを次から選べ。

　　ア　なぜなら　　イ　だが　　ウ　だから　　エ　たとえば　　オ　もちろん

［答］　ａオ　ｂエ　ｃイ